

≡≡≡ 支部だより ≡≡≡

関西支部「昭和61年度第2回例会」の報告

関西支部第2回例会は昭和61年12月12日、高松地方気象台会議室で開催されました。テーマは「局地気象」で、四国各県の気象官署、香川大学、京都大学防災研究所、広島大学、広島女子大学および全日空の会員による研究発表があり盛会でした。発表論文はつぎの11題です。

1. 1986年7月10日の強雨について（四国地方の大雨解析と雨量予測その2）

*斎藤三行・金井義文（高松地方気象台）

2. パターンマッチングによるレーダーエコーの客観解析の試み

横田茂樹（高松地方気象台）

3. 高知県の大雨特性：大雨注・警報細分発表のための基礎調査

*島村 稔・沢本弘志（高知地方気象台）

4. 1986年7月13日の雷について

梅木大輔（清水測候所）

5. 高知空港における海陸風と低層ウインド・シア（続報）

武市 智（高知地方気象台高知空港出張所）

6. 大気境界層における風の平均場と平均気圧場との関係について

森 征洋（香川大学教育学部）

7. 琵琶湖流域の局地風について

枝川尚資（京都大学防災研究所）

8. 盆地都市三次市における都市気候と河川水温の関係

について

福岡義隆・*井上智博・小林正興・太田秀樹
（広島大学総合科学部）

9. 三次市における霧の特別観測（その3：1986年の観測結果）

宮田賢二（広島女子大学、中国山地の霧研究グループ）

10. 北海道西沿海の渦動行列

宮本正明・*佐古之彦（全日空）

11. 航空と気象：特に低層での問題：付二三空港の特性

土田長三・坂井正道（全日空）・宮本正明
〔註〕 *印は講演者

これらの発表論文は生き生きとしていました。それは実際の気象現象に直面し、事実を正確に記述するために大変な努力をされたことによるのではないかと思います。

つぎに、廣田支部長の講演「大気潮汐に関する最近の話題」がありました。支部長は古典から最近の研究までを、身近な現象を例にとりながら、それが地球的で基本的な理論に結びつくことを OHP も使って熱を込めて話された。聞く人は気象学の面白さについて感銘を受け、特に若い人たちは例会後高揚した面持ちで語り合っていました。

なお今回の例会に当たりお世話になった多くの方々に深甚の謝意を表します。



青年科学者に対する WMO 研究賞決まる

今年度の賞は、マレーシアの L-C Quah 氏の「アジアモンスーンの熱源、並びに energetics」対し授与されることとなった。この賞には応募者が少ないので、もっ

と多くの人が関心を持つことが期待されている。
（気象庁ニュースより）